

みなさんこんにちは、いつも白衣の恵子先生です。

夏休み最後の奉仕作業、本当にありがとうございました。学校がとってもきれいになって気持ちよくスタートが切れました。お家の方にお礼を伝えてくださいね。そして6年生始業式の準備・片付け・運営等ありがとうございました。先生方も様々な準備をありがとうございました。

さて、夏休み明け、まだまだ暑い中今週1週間本当に頑張りましたね。学校まで来るのに汗だくになりながら、先生の顔を見ると「おはようございます」と元気に挨拶をかえしてくれるみなさんにエネルギーをもらっています。

夏休みどんな楽しいことをしてきたの？と聞いてみると、「海に行った」「プールに行った」「バーベキューした」「花火やった」などなど出てくる出てくる。この夏休みに様々な体験をしたことを話してくれる表情は充実感であふれていました。楽しいことは共有したいよね。

先生は、子どもたちを連れてミュージカルを見に行ってきました。「えんとつ町のペペル」のお話です。絵本とはちょっとだけストーリーが変わっていましたが、素晴らしい演奏・歌唱・ダンスにのせたルビッチ・お父さん・お母さんの想いに感動で涙が止まりませんでした。えんとつから出る煙のせいで町の空は“もっくもく”煙のせいで星を見ることができない。そんな中、「空の上には星がある」そう信じて、えんとつ町のみんなに星を見せようと雲を晴らすために奔走する主人公ルビッチ。そこに現れたゴミ人間。ルビッチはゴミ人間をかくまったためにまわりの人々から変わり者呼ばわりされてしまいました。それでもへこたれず、ルビッチとゴミ人間は星を見るために頑張りつづけます。町の人々に星を見せることを目標にして、様々な困難を乗り越えていく物語。目標を立てて、最後までやり抜くルビッチの姿が胸を打ちます。

始業式、校長先生から「**2学期は、それぞれの目標をもち、粘り強く最後までがんばってほしい**」とお話がありましたね。何事もやってみなくちゃ分からない。そして、最後までやりきった人にしか見えない光があります。最後まで頑張れた経験は、みなさんに「やったあ」「嬉しい」「心が軽くなった」という爽快感・達成感・充実感を与えてくれるでしょう。その感情はみなさんの心の栄養となって、さらに次の目標を立てて頑張ろうというエネルギーになるはず。どんな小さなことでも、最後まで粘り強くやり抜く。その積み重ねがみなさんを大きく成長させてくれますよ。そして頑張れた自分を好きになれるはず。

「たった一度しかない人生を、たった一人しかいない自分を、本当に生かさなかつたら、人間、生まれてきたかいないじゃないか」これは栃木県の出身の作家“山本有三”の言葉です。たった一人しかいない自分を好きになって、幸せになってほしいと願います。

それではまた来週、See you next week. Have a nice weekend.